

果樹産地における後継者・担い手育成の取組調査事例集

目次

- 01 広島果実連広島県果樹農業振興対策／広島果実連・沼隈町果樹園芸組合：ぶどう
センター：レモン
- 02 JA山口県周防大島統括本部：温州みかん／三重南紀元気なみかんの里再生プロ
ジェクト協議会：温州みかん等
- 03 長野県松川町：りんご、なし、もも等／JAフルーツ山梨：もも、ぶどう等
- 04 JA上伊那：りんご等／JA香川県：かんきつ類、キウイフルーツ、ぶどう等
- 05 JA紀の里あら川の桃部会：もも／熊本 芦北地方農業振興協議会：かんきつ
- 06 JA信州うえだ：りんご、ぶどう等／和歌山 農業生産法人柑香園：かんきつ、い
ちじく、うめ、すもも等
- 07 JAえひめ中央:かんきつ／JAにしうわ：かんきつ
- 08 JAおちいまばり(大三島)：かんきつ等／JAえひめ南:かんきつ
- 09 秋田 秋田市河辺三内地区：りんご／福井 若狭町田上地区：うめ

果樹産地における後継者・担い手育成の取組調査事例集(続き)

目次

- 10 近江八幡市若手園芸振興協議会：なし、／秋田 仙北地域種なし大粒ぶどう
ぶどう 部会：ぶどう
- 11 JA愛媛たいき(株)Pi-Nokyo：ぶどう等／JA筑前あさくら：柿、すもも
- 12 山形 大江町就農研修生受入協議会：／青森 ひろさき農業総合支援協議会：りん
すもも、洋なし、もも、りんご等 ご等
- 13 大分 佐伯市米水津地区：レモン、みかん／長崎 佐世保市宮長地区：みかん
- 14 福岡 JAみなみ筑後柑橘部会：みかん

果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

01 産地がトレーニングファームでの研修や継承園地等を用意することで新規就農者の参入時の初期投資等を軽減。

広島県果実農協連合会(広果連)：レモン

背景 園地の廃園化が進み、また果樹栽培は経営安定まで時間を要するため、新たな担い手が参入しづらい環境であった。

園地の集約・整備 耕作放棄地等を**広果連が地元と協力して集積・集約し、レモンを新植・改植**(現状3.2ha、目標10ha)。**広果連が管理し、新規参入者への園地継承に向け作業委託等により初期負担軽減**。

技術習得 園地の一部(3ha)は、広果連が新規参入者等の教育・研修用の**トレーニングファームとして活用**。

効果 新規参入者は**成園で経営できるため、参入リスクが軽減**。農場が集約されており、**農業機械等を共有することで初期投資も軽減**。



広果連・沼隈町果樹園芸組合：ぶどう

背景 平成元年～10年に整備した緩傾斜団地において、高齢化等による経営中止・園地放棄を防止するため、園地を継承する新規就農者を確保する必要があった。

トレーニングファームの設置 広果連・園芸組合・地元JAが連携して**ぶどう団地の一角にトレーニングファームを設置**。新規就農希望者に対して**2年間の研修を実施**。

継承園地の確保等 研修期間中に園芸組合が園地を確保し、研修修了後に**ぶどう棚も含めて新規就農者が継承**。**スピードスプレーヤーによる共同防除、共同たい肥施設を活用した土づくり等により技術を継承**。

効果 研修期間中に団地内の**継承予定園地の管理作業にも携わることができ、共同作業による機械等の初期投資も軽減し、継承後すぐに収益を確保**。



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

02 過疎地域に移住を促進し、産地が多様な担い手を育成するため、新規就農者向けの研修やトレーニングファームを運営。

JA山口県周防大島統括本部：温州みかん

背景 島嶼地域による少子高齢化、産地縮小・園地廃園化が進む中、島への移住政策と一体的に新規就農対策を実施することが必要であった。

多様な担い手支援 町役場とJAが共同して担い手支援センターを設置し、移住希望者等に初心者向け研修、農機具バンク、農地バンク、労働力補完サポーターを運営し、移住支援と中小面積農家育成を実施。

トレーニングファーム JA出資農業法人が2.5ha(約50筆)を借り受け専業経営希望の新規就農者を研修し、独立就農を支援。狭小・遊休園地の集積・整備等を行い、その一部を新規就農者に継承。

効果 平成24年以降に多様な年齢(20~60歳)と経営規模(1a未満~6ha)の37名の新規就農者を育成。

初心者向けステップアップ研修



JA出資型農業法人研修農場



三重南紀元気なみかんの里再生プロジェクト協議会：温州みかん等

背景 平地の少ない半島先端部で過疎化・高齢化が深刻な中、地域の活性化のため、基幹産業のみかん生産の振興、特にIターンの新規就農者の育成が課題。

新規就農者募集・支援 JA・市町・県で設置の協議会が新規就農者向け体験研修と長期研修を用意。昨年からはIターン就農者向けプロモーションサイトで地域の魅力、移住者の生活、みかん経営モデル等を発信。

研修受入れ 就農サポートリーダー(農家とJA出資農業法人)の下で1年間の新規就農研修を実施し、独立就農時に園地継承を支援。JA出資法人では研修修了時に就農者に園地をのれん分け。

効果 毎年1~2名のミカン農家の新規就農。平成20年以降の新規就農者数18名(Iターン就農約5割)。令和5年に新規就農研修者の受入れ6名。

個人農家での新規就農研修



JA出資法人での新規就農研修



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

03 地域おこし協力隊の仕組みを活用し、果樹での新規就農希望者を地域おこし協力隊員として長期研修を行い、園地を継承

長野県松川町：りんご、なし、もも等

背景 深刻な担い手不足が進む中、果樹の新規就農希望者に対して行政・地域が一体となった新たな受入体制を整備することが必要であった。

地域おこし協力隊を活用した果樹研修制度 令和元年度から町が果樹での新規就農研修の地域おこし協力隊員を募集し、3年間の研修を実施。地域の生産法人・農業者が研修の場を提供(1年目;基礎研修、2年目;希望品目による専門研修)。研修3年目は自園地での栽培管理から販売・経営計画など実践研修を実施。

町全体での就農支援 町の機関・組織が連携して園地継承、農機具・住宅斡旋、就農準備金支給、面談・巡回、若手農業者グループによる仲間づくり等を支援。

効果 令和5年7月で研修修了者2名が就農。1名が自園地での実践研修。4名(3・4期生)が基礎・技術研修。

りんごの剪定の研修

研修1期生(就農); 2期生(自ほ場研修)



JAフルーツ山梨：もも、ぶどう等

背景 高齢化、果樹生産の減少が進む中、地方自治体とJA子会社((株)めぐりフルーツ)が連携して新規就農者を育成し、園地等の円滑な継承等を行う必要があった。

地域おこし協力隊員等への長期研修 令和4年6月新設のJA子会社が園地1haを借受け、成園の管理や新植等により園地経営を行うとともに、同年10月から自治体と連携して地域おこし協力隊員3名を長期(3年)研修生として受入れ。

耕作放棄園の解消・新植 研修の一環で耕作放棄園地の解消、遊休園地への新植等を実施。研修修了後に法人園地ののれん分けを行い独立就農を支援予定。

効果 JA子会社への園地の集積・集約が促進(2haに拡大)。令和5年度も研修生3名受入れ。

JAフルーツ山梨出資法人 ぶどう園

耕作放棄地解消-新植



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

04 産地(JA)が主体となって、新規就農希望者を農業インターンとして技術や経営の研修期間中の生活安定資金を支給。園地等の継承による独立就農を支援

JA上伊那：りんご等

背景 高齢化や担い手減少が進む中、JAが独立就農を目指す新規就農希望者を研修し、担い手を育成して産地を維持する必要があった。

JAによるインターン研修 平成8年からJAの事業とインターン研修制度を実施。インターン研修生はJA指導の下、**先進農家(県が登録する里親)**で**1～3年間の研修**(原則1年で更新可能)を実施。研修期間中の生活安定資金としてに**210万円を支給**。

研修先農家・JAによる園地の斡旋 **過去の新規就農者**中心の「上伊那の未来を創る会」**メンバーのネットワーク**やJAにより離農者の**園地等を紹介・斡旋**。

効果 令和4年までに**インターン研修生99名(うち果樹31名で、就農実績26名)**。20年前のIターン就農者が地域リーダー(里親)として新規就農研修を指導。

Iターン就農者(里親)と研修を受けた新規就農者 新規就農者のトリス仕立てりんご園



JA香川県：かんきつ類、キウイフルーツ、ぶどう等

背景 信念ある農業の担い手を一人での多く確保するため、JA統合を機に農業インターン制度を発足した。

JAによるインターン研修 平成12年からJAの特別臨時職員として採用(1年)し、**農業インターン生**として**先進農家、県の農業大学校・農業試験場等で研修**。給与として**年間168万円を支給**(別途社会保険も適用)。

園地等の継承と就農後の支援 研修終了後の園地は、農業委員会、市町役場等からの紹介のほか、**受入農家の園地継承**や**親の園地継承(Uターン就農)**の場合も。就農後は、JA指導員、普及員や受入農家、生産部会が経営や技術指導の支援

効果 令和4年度まで(22年間)に、**インターン生200名(うち果樹24名)**、**果樹農業の就農者23名**の実績。

農業インターン生研修(キウイフルーツ園) Uターン就農者のキウイフルーツ園



果樹産地における担い手確保・経営継承の取組

05 産地の果実ブランドを維持するため、生産部会や協議会が主体となって新規就農者へのトレーニング制度を運営。研修修了者に園地継承し独立就農を支援。

JA紀の里あら川の桃部会：もも

背景 高齢化・跡継ぎ問題による園地規模縮小・離農者増加に対応し、産地ブランドや優良園地維持のため新規就農者等後継者の育成が必要であった。

研修サポーターによる育成 平成27年に部会が中心となって生産者から研修サポーターを選任。サポーター会として、新規就農希望者1名に複数サポーターを当て、もも生産の経営・栽培技術等の研修と地域への溶け込み等を支援。

新規就農者への園地継承 部会が部会員に営農継続意向アンケートを行い、新規就農者受入れの意識醸成を図りつつ継承可能な園地を把握。行政・JAと連携してサポーターが新規就農者の園地継承を支援。

効果 平成27年から研修生8名受入れ、うち5名が就農。(2名が研修中)。

もも園の状況



研修サポーターによる新規就農研修



熊本 芦北地方農業振興協議会：かんきつ

背景 平坦地の少ない中山間地域で農家の高齢化、後継者不足により産地縮小が進む中、外部からの新たな担い手の確保・育成が急務となった。

新たな担い手の確保対策 協議会内にプロジェクトチームを設置。平成30年から、就農フェア等への出展、産地見学会、短期(5日間)のお試し研修を実施し、地域外からの新規就農希望者を誘致。

継承園地の確保と研修 離農予定者の園地をJAがリリース園として一時的に管理。新規就農希望者の就農準備(2年間)の研修園として活用し、就農時にはその園地を継承。

効果 産地見学会参加者14名で、令和2年から就農準備研修者7名受入れ、うち7名就農(100%)。園地5.2haを経営継承。

産地見学会



新規就農者の研修園地の継承



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

06 JA出資法人や農業生産法人による担い手育成と園地継承の一体的実施。果樹栽培による耕作放棄地の再生と新品種・省力栽培の園地の継承による担い手の育成。

JA信州うえだ：りんご、ぶどう等

背景 高齢化や深刻な担い手不足が進む中、JA自らが農業経営を行い地域の担い手の役割を果たしつつ、担い手育成と園地継承の一体的実施が必要であった。

JA子会社による樹園地継承・新規就農 JA出資法人が借り手のない園地を借り受け、栽培管理・省力樹形への改植等を行い、新規就農希望者を雇用・研修し、研修修了(2年間)時に園地をのれん分けし就農支援。

耕作放棄地でのぶどうの新植等 耕作放棄地を整備し生食用ぶどうを新植し結実後に研修修了者に継承。耕作放棄地のワインぶどう園整備に参画し就農希望者の研修(2年)と研修修了者への園地継承を支援。

効果 果樹研修生40名を受け入れ、うち33名の就農支援(H21～R5.4)。園地56haを借り受け、37haを担い手に継承、うち改植/新植面積5.6ha。

新規就農者研修 (りんご・ぶどう)

耕作放棄地再生(ぶどう新植)



和歌山 農業生産法人柑香園：かんきつ、いちじく、うめ、すもも等

背景 かんきつ等多様な果実生産・フルーツ加工・フルーツパーラー等を展開。高齢化・離農に対応して若者に儲かる経営を指南し独立就農の支援の取組み。

新規就農支援 紀の川市の法人園地14haで就農希望若手を研修(2年間)し技術・経営等を指導。周辺の離農農家の園地を借り受け整備(新植等)。研修修了後に園地の作業受託や利用権継承を行い独立就農を支援。

果実販路・収入補填等の支援 独立就農者の果実を高値で買い取り販路確保。新植園地の独立就農者に法人でのアルバイト提供や法人農機の貸与の支援。

効果 過去7年間に地域の独立就農者15名以上(R4.10)。法人からの作業受託4ha、園地継承7ha(独立就農後の自らの借入れ園地11ha)。

新規就農者の研修 (かんきつ)

耕作放棄地の整備 (レモン新植)



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

07 JAが主体となって新規就農研修の拠点を設置。JA研修園と農家ほ場等での研修、就農予定地での栽培手伝いや空き園地の管理作業等により園地継承・新規就農を促進

JAえひめ中央:かんきつ

背景 園地が急傾斜で作業効率が悪く、高齢化による農地の遊休化・減少が進み、新規就農者の受入れが必要であった。

新規就農研修拠点の設置 平成25年にJAが耕作放棄が進む園地約1.5haを借り受け改植等によりトレーニング・ファームを整備し、研修生募集。27年から新規就農研修センターとして2年間の研修を開始(ファーム拡張により果樹・野菜で約4.8ha)。

新規就農者への園地等の斡旋 JAが廃園予定地等把握し、農業委員会と連携して新規就農者に斡旋。研修センターで研修修了まで園地の管理する場合も。

効果 かんきつ栽培(野菜複合含む)の研修生受入れ77名、うち新規就農者70名で定着率9割(H25~R4)。紅まどんな等ブランドかんきつへの改植も順次実施。

新規就農研修センター：トレーニング・ファーム



新規就農希望者の研修の状況



JAにしうわ:かんきつ

背景 半島部の急傾斜地で、高齢化等による出荷者・栽培面積の減少が進行し、外部からの新規参集者を受け入れる体制が必要であった。

新規就農希望者受入れ体制 臨時雇用から多数の就農希望。集落農家で構成する担い手支援チームが就農希望者を受け入れ、チームメンバーの園地で2年間の研修・JA研修園(2ha)での週1回の集合研修を実施。研修中の宿泊希望者用施設は閉校した小学校を活用。

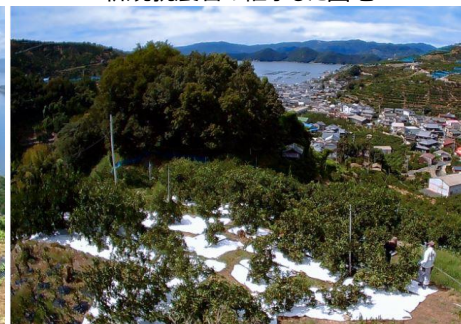
新規就農者への園地等の斡旋 研修者受入れ時点で空き園地、倉庫等の見通しを確認。研修期間中に研修受入れ先チームメンバーが協力して就農時に斡旋(JAが空き園地を就農時まで管理・改植すること)も。

効果 新規就農研修受入れ34名(臨時雇用からの研修者23名)、うち新規就農24名(H20~R5.7)。

新規就農研修の状況



新規就農者の継承した園地



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

08 JAがトレーニングファームを設置し、新規就農者を育成。遊休園地や災害復旧園地をJAが研修園として管理し、研修者へののれん分けにより園地継承。

JAおちいまばり(大三島)：かんきつ等

背景 島嶼部に立地し高齢化や深刻な担い手不足が進む中、島への移住者増加と農業への関心に対応してJAが研修を行い新規就農者の育成が必要であった。

トレーニングファームと移住 JAが遊休園地を借受け新規就農研修園を設置し、平成29年度から2年間の長期研修を実施。離農者園地を研修園に加え、適宜晩柑類等に改植。研修修了後にのれん分けして独立就農を支援。行政の移住政策と連携し新規就農者に農家の空き家を紹介し必要な作業倉庫等も確保。

災害の復旧園地の継承 平成30年豪雨災害の復旧園地をJAが研修園としてレモン、紅マドンナ等ブランド晩柑類を植栽・管理し、順次新規就農者に継承。

効果 平成29年～令和5年の実績で、研修生12名を受入れ11名が就農(JAの就農時継承面積は6.6ha)。

新規就農研修 (かんきつ収穫)

J Aによる研修園の改植 (中晩柑)



JAえひめ南(愛南町・宇和島市):かんきつ

背景 リアス式海岸と急峻な山々に囲まれた傾斜地でのかんきつ栽培において、高齢化・担い手減少、産地の衰退に対応して、新規就農者の育成が必要であった。

トレーニングファーム JAと町が連携して研修園を設置し、令和元年度から町内へのUターン就農希望者を対象に原則2年間の長期研修を実施。令和5年度にJAと市が連携して新たに研修園を設置し、令和6年度から外部からの参入希望者を含む新規就農研修(みかん学校)の開校を準備中。

Iターン就農者への園地等継承の準備 JAと市が連携して離農者の園地や農家の空き家を斡旋する仕組みを構築。荒廃園地を研修園として借受けて整備し、研修修了後にのれん分けする計画。

効果 令和元年以降延べ8名が研修し5名がUターン就農。

Uターン就農希望者の研修園

みかん学校の研修園



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

09 園地の集積・集約・整備を行い、新たな担い手（法人、個人）に園地を継承。

秋田 秋田市河辺三内地区：りんご

背景 高齢化等による経営規模縮小・廃園の進行に対応して、地域への新規就農者の受入れと、園地整備・改植による作業性改善が必要であった。

研修者への園地マッチング 研修中の新規就農希望者から条件に見合う園地借受けの要望を受け、**県農業公社が市新規就農センター等と連携**して、園地所有者に貸付けを交渉し、**園地継承をマッチング**。

農地バンクによる新植 農地バンクが果樹経営支援対策事業の実施主体として、**マッチングした園地40aにりんごを新植**し、新規就農者に園地を貸付け。**就農に際して農業機械等を無償貸与**。

効果 新規就農者の継承園地の**労働時間が慣行栽培に比べ約2割減少**。**新たな園地継承で経営拡大(3ha)**。

福井 若狭町田上地区：うめ

背景 担い手の高齢化、園地の老木化等により荒廃園地が増加し、地域の歴史ある梅園風景が失われる恐れがあった。

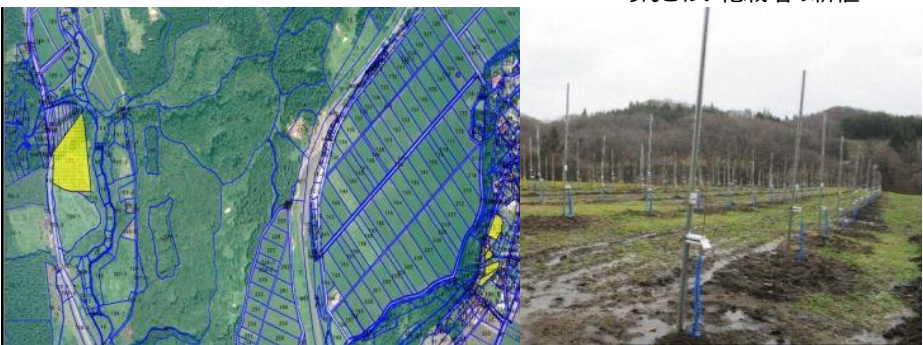
農家と加工業者による法人の設立 **地元加工業者とうめ農家が連携し栽培法人(農地所有適格法人)を設立**。農地バンクを介して**園地3.6haを当該法人が一括して借受け**。

継承園地の整備・新植 当該法人が補助事業を活用して**園地を整備し、多収品種を新植**。**園地借料**について**幼木期は抑えて成木期に見直す**ことや、**地域集積協力金をうめ園の維持管理費として活用**するなど、地域全体で新植時の未収益期間の負担を軽減。

効果 地域の**園地担い手集積率が7割**に向上。他の地域でも**農事組合法人や新規就農者の園地継承に波及**。

新規就農者にマッチングした園地

りんごわい化栽培の新植



うめ園地の集積・集約の状況

新植したうめ園地の現状（R5年から結実）



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

10 関係機関が連携し新たな果樹産地を整備し、果樹栽培の新規参入者（新規就農者）を募集・育成。栽培管理の技術指導や販路・収益確保を支援

近江八幡市若手園芸振興協議会：なし、ぶどう

背景 琵琶湖の干拓地において新たな果樹の生産拠点を整備し、新たな特産品の産地づくりと地域農業の活性化を図った。

果樹団地の整備と新規参入者の募集 JAが事業実施主体となり干拓地9ha・18区画にナシ、ブドウの果樹棚を整備。令和3年に入植者を募集し、**20～30歳代の新規参入者12名が苗木を新植**(果樹棚はリース)。

新規就農者への支援 **新規就農者7名**には、普及員が**果樹の栽培管理技術を指導**。JAは**未収益期間のブロッコリー等野菜栽培**の指導・販売の支援。

効果 観光地近郊の**直売所での地元産果実販売を経営モデルとする新興の果樹産地**を育成。さらなる果樹団地の拡大・発展の可能性。

果樹団地：ブドウ苗木の植栽セレモニー

ナシの新植：低樹高V字栽培



秋田・仙北地域種なし大粒ぶどう部会：ぶどう

背景 水田地帯に果樹産地を形成し、コメ依存脱却を目指す必要があった。

ブドウ生産農家の募集と産地化 平成26年にJAと県地域振興局が中心になって、**水田から種なし大粒ぶどう栽培に転換する農家を募集**。栽培マニュアルを示し、**補助事業を積極的に活用して、令和4年に56経営体(うち7農業法人)**で7.9haのブドウ産地を形成。

新規参入者への栽培管理指導 地域振興局・果樹試験場・JAが連携して講習会、個別巡回、**果実品質検討会**等により**点在する生産者を丁寧に指導**。平成29年頃から**果実の地元需要増により新規栽培・園地拡大**。

効果 果樹経営での**親元就農者や新規就農者**が現れ、**地元消費者の需要により販売金額・収益とも増加**。

農業法人のブドウ園全景

ほ場巡視会の状況



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

11 JAが中心となった担い手確保対策—遊休園地等を活用したトレーニングファームでの研修や災害復旧地での果樹栽培のモデル園設置による産地の復活

JA愛媛たいき (株)Pi-Nokyo : ぶどう等

背景 農家の高齢化・後継者不足、遊休農地の増加が進む中、JA出資法人が遊休農地等を活用して新規就農研修等の開始した。

出資法人での園芸作物の複合経営研修 平成31年設立のJA出資法人が被災した農業施設等を活用して園芸作物(野菜・イチゴ)経営と新規就農研修等を開始。令和3年に遊休園地にブドウを新植し研修園として活用し果樹を含む複合経営の研修を実施。

研修者への支援等(園地継承) 令和5年に研修生への雇用給与の支給から就農準備資金の受給に切替え。JA・県・市の就農サポートチームによる園地の斡旋のほか、法人による継承予定園地の保全管理。

効果 研修修了者2名が就農(イチゴ、ナス)。ブドウ栽培も考慮中。

イチゴの研修園

ブドウ(シャインマスカット)の研修園



福岡 JA筑前あさくら : 柿、すもも

背景 被災した柿農家の早期経営安定のため、JAがアスパラガスとの複合経営を推進。その成果を踏まえて被災地域でのスモモ産地の復活を目指す。

被災農家の経営安定対策 平成29年豪雨災害により柿園地が被災。JAが園芸ハウスを建て被災農家をファームディレクターとしてアスパラガス栽培を指導し、柿との複合経営による早期経営安定を推進。

スモモのモデル園設置 令和4年度にJAが被災農地にスモモを新植し省力樹形栽培のモデル園(38a)を開設。果樹農家(ファームディレクター)とモデル園を栽培管理しつつ、令和5年度も新たなスモモ園を計画。

効果 令和2年～4年に被災農家9名が柿-アスパラ経営導入。被災農地にスモモ園を拡大し、若手農家に継承して産地化を計画。

JAによるスモモ園の開設

スモモの新植作業とその後の生育の状況



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

12 積雪寒冷地における新規就農育成対策—自治体と農業者等が連携した協議会が研修・園地継承等のサポート体制を整備し新規就農者の確保と定着促進を実施

山形 大江町就農研修生受入協議会：すもも、洋なし、もも、りんご等

背景 果樹の耕作放棄が増え農家後継者が少なく、有望なスモモ新品種を産地として生産振興するために外部からの新規参入者の確保が必要であった。

協議会による就農研修生の積極的受入れ 平成24年から新・農業人フェアに参加し新規就農希望者を募集。**町内の果樹農家等を中心に就農研修生受入協議会を組織し、研修・就農支援**を積極的に展開。

手厚い就農支援措置 研修1年目の**スモモ新植による早期成園化**、独立就農後の**野菜栽培の共同経営**、**町営戸建て住宅**の手当、**巡回指導**等の就農定着支援。

効果 令和5年4月で**19名の樹経営就農者(スモモ経営17名)**。**首都圏からの移住就農者が14名**。独立就農者の園地借入れ面積33ha超え。

スモモの剪定の研修

受入協議会による独立就農後の巡回指導



青森 ひろさき農業総合支援協議会：りんご等

背景 農家の高齢化が深化し、既存経営体の規模拡大では産地の生産維持に限界。技術不足の新規就農者の経営失敗が相次ぎ就農研修体制が不可欠であった。

協議会による研修制度の整備 令和2年に**市が中心となり協議会を設置し新規就農研修を開始**。研修活用者の多くは**県内の非農家出身者やUターン希望者**で、**トライアル研修**を経て里親農家の下で実践研修を実施。

園地継承円滑化システム 令和4年に**概ね5年以内に第3者への継承希望の園地の情報(時期、品種・樹齢、水源・傾斜等)の登録・提供システム**を稼働。令和5年から研修制度と連動した取組みを始動。

効果 令和5年度に研修者8名(果樹5名)に大幅増加。就農実績1名。

トライアル研修(里親農家と研修希望者顔合わせ)

里親農家の下での実践研修



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

13 園地整備の主導による多様な担い手の育成ー耕作放棄地等を優良な園地に整備し企業、新規参入者、若手生産者等への継承による果樹経営を実施

大分 佐伯市米水津地区：レモン、みかん

背景 農家の高齢化・後継者不足による耕作放棄園地が広がる中、園地再編整備のため、果樹経営の担い手として企業誘致が必要であった。

企業参入を見込んだ園地再編整備 遊休園地の再編整備計画について**企業等を担い手**として推進。市・県等が連携して**農地集積し、農地中間管理機構関連農地整備事業**により園地整備。

果実加工企業の農場開設等 平成30年に**香料製造企業がレモン栽培の現地法人を設立**し、市と参入協定を締結。令和3年・4年にレモン苗木(大苗)を新植、県普及と全農が栽培管理指導。JAが整備した施設に**新規就農者3名が令和2年からハウスみかん経営を開始**。

効果 令和5年夏にハウスみかんを結実・収穫。企業のレモン園も令和5年12月に初収穫。今後、JA出荷と香料原料利用を実施予定。

参入企業のレモン園(R5.8)



ハウスみかんの新規就農者



長崎 佐世保市宮長地区：みかん

背景 担い手や後継者の経営規模拡大、省力化や生産性・品質向上のため、急傾斜の耕作放棄地を区画整理により優良農地へ整備し、周辺の既存園と一体的にかん水施設を整備する必要があった。

園地と畑かん施設整備 **区画整理7.7haと畑かん施設23.1haを整備**。耕作放棄地において、整備後、一時利用地指定完了まで、**賦課金を県農業振興公社が負担する制度**を活用。また、**地域集積協力金**を賦課金に充てることで、組合員の金銭的負担の軽減を図った。

若手生産者への園地継承 **若手生産者(30歳代中心)に整備後園地への入植を募集**し、令和4年・5年にみかん苗木を新植。

効果 **農機利用による省力化、マルドリ栽培(導入予定)によるブランドみかん生産、若手生産者の経営規模拡大**により、園地面積も増加。

宮長地区基盤整備事業の全体像



園地へのみかんの新植



果樹産地における後継者・担い手育成の取組み

14 計画的な園地整備等による作業性改善とブランド化ー若手後継者に加えてUターン就農者、新規栽培者への園地継承と技術指導により産地を維持

福岡 JAみなみ筑後柑橘部会：みかん

背景 園地整備・改植により作業性の大幅な改善とブランド化による収益性の改善を進めた結果、Uターン就農者・新規就農者が現れ、研修が必要となった。

計画的改植・園地整備と果実ブランド化 優良品種への改植と省力樹形の導入、園内道整備等を進め、作業性等を大幅に改善。果実出荷規格と生産工程管理を結びつけた**園地登録制による産地ブランド**の市場評価を確立。

生産部会のトレーナー制度 平成28年から部会マルチシート栽培のベテラン生産者を各地区単位で**トレーナーとして選定**。Uターン就農者や新規参入者にみかん生産技術・経営等を指導・助言。

効果 作業性や収益性の改善により、女性農業者の活躍、親元就農や若いUターン就農者等が増加、収穫作業等に従事する被雇用者の安定確保。

みかん園地の基盤整備の状況

トレーナーによる技術指導の状況

